資料　1

平成 30 年度

事 業 報 告 書

1　協会本部 ・・・・・・・・・・・・・・・・　1頁

2　リハビリセンター ・・・・・・・・・・・・　16頁

3　ふれあいの家・・・・・・・・・・・・・・・　32頁

4　点字図書館・・・・・・・・・・・・・・・・　35頁

5　東紅苑・・・・・・・・・・・・・・・・・・　39頁

6　ほっとぴあ・・・・・・・・・・・・・・・・　41頁

社会福祉法人　山形県身体障害者福祉協会

平成３０年度　山形県身体障害者福祉協会本部事業報告

≪概　要≫

１　当協会は、創立６５周年を迎え、また、リハビリセンターが５０周年、東紅苑及び点字図書館がそれぞれ４０周年を迎える節目の年に当たり、平成３０年１０月３１日に記念式典及び祝賀会を挙行し、障がい者福祉の向上発展と共生社会の実現に向けた各種事業に取組み、改正社会福祉法による制度改革に沿って、社会福祉法人として適切な法人運営に努めました。

２　障害者差別解消法及び「山形県障がいのある人もない人も共に生きる社会づくり条例」が平成２８年４月１日に同時に施行されてから３年経過しましたが、県では、県民一体となって障がい者差別の解消と障がいの有無に関わらず共生する山形を目指し、ヘルプマークの導入・配布を開始するなど、条例の県民への普及啓発に向けて様々な施策を推進されています。

当協会は、地域で障がい者が安心して安全に生活できる共生社会を実現するため、「第５０回山形県身体障がい者福祉大会」やブロック研修会等を開催し、県条例の普及啓発と県内全ての市町村における差別解消条例の制定に向けて、市町村協会等と連携し、機会を捉えて県等に意見や要望活動を継続的に行いました。

３　市町村等身障協会においては、会員の高齢化・重度化等により会員数の減少が進み、新規会員の加入促進と地域活動の強化が大きな課題となっています。こうした現状を打開していくため、各協会では、行政との連携強化やレクリエーション・スポーツ活動、旅行等の交流事業、友愛訪問活動等を実施し、会員拡大や地域活動の活性化に努めました。

また、会員同士の連帯意識の醸成と会員数の増加を図るとともに、商品の割引等による経済的支援を図るため、協会の会員証を活用した会員割引協力店の拡大に取り組みました。

４　リハビリセンターは、障がい者支援施設、障がい福祉サービス事業所及び相談支援事業所として、利用者のサービスの充実を図り、利用者主体の運営に努め自立に向けた支援を行うとともに、リハビリセンター及びふれあいの家においては、利用者の権利擁護と虐待防止に取り組みました。

また、山形県の指定管理施設であるふれあいの家、点字図書館、東紅苑の３施設については、各施設の目的に沿ったサービス向上と適切な管理運営に努めました。

５　法人本部においては、障がい者の自立と社会参加を推進するため各種事業を実施するとともに、市町村等身障協会や関係団体との連携を図りながら、県身体障がい者福祉大会や県知事訪問等を行い、障がい者福祉向上に向けた県民への啓発や各種要望活動に取り組むとともに、市町村協会のブロック別役員・事務局研修会を開催し、市町村等協会の組織強化や市町村における差別解消条例の制定促進に取り組みました。

≪具体的な事業実施状況≫

Ⅰ　法人運営

1　法人の運営管理

法人の経営は、社会福祉法及び当法人の定款並びに関係規程を遵守し、適正な執行に努めました。

(1)　三役会議の開催

正副会長、常務理事をもって構成し、評議員会や理事会への提案事項の他、法人・施設の運営上の喫緊の課題等について協議を行うため、県身障会館において次の日程により開催しました。

①　開催日　　５月１７日（木）
②　開催日　　９月２０日（木）
③　開催日　１２月１２日（水）
④　開催日　　３月　５日（火）

(2)　理事会の開催

法人・施設の事業や予算の決定等に係る定例理事会の他、運営上生じた重要事項に係る業務等を決定執行するため、県身障会館において次の日程により開催しました。

①　第２７６回理事会　　５月２４日（木）
②　第２７７回理事会　　９月２７日（木）
③　第２７８回理事会　　３月１４日（木）

(3)　評議員会の開催

法人・施設の事業計画案及び事業実施状況や、予算案・決算等について審議していただくため、県身障会館において次の日程により開催しました。

①　第１６１回評議員会　　６月１８日（月）
②　第１６２回評議員会　１０月２４日（水）
③　第１６３回評議員会　　３月２８日（木）

(4)　監事会の開催

法人・施設の運営や事業の推進並びに予算の執行について監査を受けるため、県身障会館において次の日程により開催し、改善に関する提言を受け意見交換を行いました。

①　平成２９年度決算監査　　５月１８日（金）
②　平成３０年度中間監査　１１月２６日（月）

2　専門委員会及び運営委員会の開催

(1) 視覚、聴覚、肢体、内部・言語障がい者各専門委員会については、委員会とし

ては開催しませんでしたが、会員から寄せられる障がい者差別の事例と障害者差別解消法に関わる動きについて、障がい別団体代表者意見交換会を開催しました。

① 障がい別団体代表者意見交換会　８月８日（水）県身障会館

⑵ 青壮年専門委員会

青壮年層が気軽に参加できる活動や取組を行い、次世代を担う人材の育成と市町村協会の活性化に繋げるため、若者の相互交流の場を設けました。

① 青壮年専門委員会　　第１回　５月１１日（土）県身障会館
　　第２回　６月２３日（土）県身障会館

② 青壮年のつどい
「ＢＢＱを囲んでわくわく会」　８月１８日（土）東紅苑　参加者１９名
「楽しい庄内わくわくミニ旅行」９月３０日（日）参加者９名

⑶ 女性専門委員会

女性会員の果たす役割や身体に障がいを有する女性会員を中心とした地域活動からの市町村等協会の活性化等を目的とした地区別女性の集いを開催し、県内各地の障がいを有する女性同士交流を深め合いました。

① 女性専門委員会　　第１回　　４月２４日（火）　県身障会館
　　第２回　１１月２７日（火）　県身障会館
② 女性専門委員・連絡員合同会議　４月２４日（火）　県身障会館
③ 県身障協会女性会員研修会　　１２月６～７日（木・金）　東紅苑
④ 地区別女性の集い（仲間づくり声かけ運動促進事業）
・村山地区女性のつどい　　８月２４日（金）～２５日（土）東紅苑
参加者５１名
・　〃　女性専門委員・連絡員等研修会（ランチ交流会）
３月２５日（月）上山市「五色屋」（県身障協会会員割引協力店）　参加者１６名
・置賜地区女性のつどい　　６月２７日（木）白鷹町「パレス松風」
参加者８５名
・最上地区女性のつどい　　１０月５日（火）舟形町若あゆ温泉「あゆっこ村」　参加者４２名
・庄内地区女性のつどい　　９月１９日（水）庄内町第四公民館
参加者７５名

⑷ 運営委員会等

① リハビリセンター運営協議会

専門的知識や技術を提供できる地域福祉の中核的施設としての自覚を高めるとともに、利用者や地域に貢献できる施設運営の在り方について検討を行いました。

・　第１回運営協議会　　６月２８日（金）　県身障会館
・　第２回運営協議会　　３月２４日（月）　県身障会館

②　東紅苑運営委員会・利用拡大協力員会議

県・市町村身障協会から選任された委員により、東紅苑利用拡大に向けた、より良い運営の在り方についての意見交換を行いました。

・　運営委員会　　４月２６日（木）　東紅苑
・　利用拡大協力員会議　　４月２６日（木）　東紅苑

③　収益事業運営委員会

県立中央病院売店「ほっとぴあ」の売上増加のための取組み等について前年度策定した「売上増加の取組・運営にかかる改善計画」を受けて、今後の対応を協議し、ヤマザキショップへの加入の方向性が確認されました。

・　第１回収益事業運営委員会　９月２０日（木）

④　組織強化委員会

会員拡大や協会活動の活性化などを図るため、ブロック別研修会を開催し、市町村障がい者差別解消条例の制定についての講話及び組織活性化に向けた取組について事例発表と意見交換を行いました。組織強化委員会は、日程調整がつかず当年度は実施しませんでした。

・　ブロック別市町村等身障協会活性化研修会の開催

村山・置賜地区　１１月　９日（金）　米沢市すこやかセンター
参加者　６２名
庄内・最上地区　１１月１３日（火）　庄内町余目第四中央公民館
参加者　８３名

Ⅱ　障がい者の自立と社会参加の推進

障がい者が地域社会において自らの意思に基づき、能力や適性に応じ自立した生活を営むことができるとともに、社会参加の促進が図られるよう次の事業に取り組みました。

1　地域生活支援事業の推進（県受託事業）

身体・知的・精神の３障がいの多種多様なニーズを把握して、社会参加推進施策を効率的に推進し、障がい者の自立支援と社会参加の促進を図るため次の事業に取り組みました。

(1)　障がい者社会参加促進施策推進事業

障がい者の多様なニーズに対応し、障がい福祉サービス等の効率的活用を図るため、市町村行政等の情報収集に努めるとともに、行政や地域障がい者に対し情報提供を行いました。

(2)　障がい者１１０番の運営

相談窓口を常設し、保健所等行政機関や法テラス山形、就労支援機関、関係

相談窓口などを活用しながら、障がい者の権利擁護等幅広い相談に応じました。

区分			平成28年度	平成29年度	平成30年度
一般相談	相談総件数		２７１	３３０	３０２
	性別	男性	６９	７７	１２６
		女性	２０２	２５３	１７３
		その他	０	０	３
	相談者別	本人	２３３	３１２	２４８
		家族	２１	１３	３４
		その他	１７	５	２０
	地区別	村山	１４	１９８	１０１
		最上	８９	１	０
		置賜	４	０	８
		庄内	９	１４	２２
		その他	１５５	１１７	１７１
	相談方法	電話	２６０	３２７	２８７
		来所	６	１	１
		ＦＡＸ	２	０	０
		その他	３	２	１４
	障がい別	身体的	３１	３４	５２
		知的	２３	８	４３
		精神的	２１４	２８１	１９０
		その他	３	７	１７
	相談内容	人権	１１	３	９
		財産	５	９	４
		福祉	４５	５５	５６
		保健医療	１０６	８８	６６
		教育	０	４	２
		就労	１１	３３	６４
		生活	１４	２８	２２
		その他	７９	１１０	７９
開設日数			２４３	２４４	２４７

(3) 障害者相談員活動強化事業

県及び市から委嘱されている障害者相談員の資質向上を目的として、次の研修会を実施しました。

① 県身体障害者相談員研修会　９月１２日（水）山形国際交流プラザ
出席者１２７名

② 地区別相談員研修会

・東南村山地区　　１０月１日（月）　東紅苑　参加者２４名

・西村山地区　　６月１９日（火）　東紅苑　参加者１１名
　　１２月１４日（金）　東紅苑　参加者１０名
・北村山地区　　１月２８日（月）　東紅苑　参加者１４名
・新庄・最上地区　６月　８日（木）　真室川町健康管理センター
　　参加者　８名
・東南置賜地区　１１月２３日（金）～２４日（日）東紅苑
　　参加者１１名
・長井・西置賜地区　３月１１日（月）～１２日（火）白鷹町パレス松風
　　参加者１０名
・鶴岡・田川地区　３月１０日（日）鶴岡市ゆうあいプラザかたぐるま
　　参加者１８名
・酒田・飽海地区　１１月１８日（日）～１９日（月）眺海の森さんさん
　　参加者１５名

○身障相談員(１７６名)の相談件数(平成２９年度延べ件数)

区分(相談員数)	村山(８３)	最上(２０)	置賜(３４)	庄内(３９)	計(１７６)
身体障害者手帳	１２１	１１	５６	１６	２０４
補装具	３８	４	１１	７	６０
日常生活用具	７４	４	１５	５	９８
更正・育成医療	３９	３	４	２	４８
福祉施設	６８	８	１５	１３	１０４
障害年金・手当	４５	７	２６	５	８３
介護保険	７７	４	１７	８	１０６
生活福祉資金	２３	５	７	１	３６
税金	４９	８	１５	８	８０
保険・医療	１５８	３	３２	１１	２０４
結婚・育児	５	０	１	０	６
就職・就労	１９	１８	９	１	４７
対人関係	１２６	１	３２	６	１６５
虐待	５	０	３	０	８
その他	９０５	３６	４６３	１００	１，５０４
合計	１，７５２	１１２	７０６	１８３	２，７５３

③ 知的障害者相談員研修会（山形県手つなぐ育成会委託）
　　１１月１４日（水）～１５日（木）　東紅苑
　　参加者１４日４３人、１５日１８人

⑷　地域福祉活動指導員の設置

地域福祉活動指導員を配置し、市町村等の身体障害者福祉協会及び障がい別団体への訪問や関係会議等へ出席する等により、組織強化への支援や地域活動の促進、社会参加と自立の促進に努めました。

⑸　中途失明者緊急生活訓練事業

実施状況は点字図書館の事業実績報告書を参照

⑹　オストメイト社会適応訓練事業　（日本オストミー協会山形県支部委託）

ストマ用装具の正しい使用法や、社会生活上の相談支援の講習会の開催等社会復帰に必要な支援事業を実施しました。

①　オストメイト談話室　　毎月第２土曜日 山形市総合福祉センター
参加者 延９５名

②　オストメイトかふぇ　　６月１２日（火）８月２８日（火）
１２月１９日(水) ３月１３日(水)
日本海総合病院　参加者 延べ３８名
７月１８日（水）１１月２１日（水）
鶴岡市立荘内病院　参加者 延べ１５名

③ オストメイト家族会の集い　　１１月１８日(日)　日本海総合病院
参加者 ３９名

④ 訓練研修会　　５月１２日（日）山形市総合福祉センター
参加者 ５０名
６月１７日(火) 県立新庄病院
参加者 ３２名

⑤ 温泉に入って語ろう会　　１１月１１日（日）～１２日（月）東紅苑
参加者　１７名

⑥ 入浴体験会　　７月８日(日) 鶴岡市湯野浜温泉 参加者 １８名
１０月２１日(水) 東紅苑　参加者 １９名

⑺　音声機能障がい者発声訓練・指導者養成事業（発声教室「山彦会」）

咽喉を摘出し音声機能を喪失した障がい者を対象として、発声訓練や発声訓練指導者の養成事業を実施しました。

①　合宿訓練（２泊３日）　　６月２６日(火)～２８日(木)　東紅苑
９月１１日(火)～１３日(木)　東紅苑
３月１２日(火)～１４日(木)　東紅苑
参加者 延９２名

②　発声訓練

山形教室	毎週火曜日	山形市「福祉文化センター」
米沢教室	毎週木曜日	米沢市すこやかセンター
酒田教室	毎週木曜日	日本海総合病院
新庄教室	第２・４木曜日	県立新庄病院
参加者	延　１，２８４名（延日数１４２日）	

③　指導者養成研修会派遣（２泊３日）
１０月１９日(金)～２１日(日)　宮城県障害者福祉センター(仙台市)
参加者 ５名

⑻　即時情報ネットワーク事業

実施状況は点字図書館の事業実績報告書を参照

⑼　点訳奉仕員・朗読奉仕員養成事業

実施状況は点字図書館の事業実績報告書を参照

⑽　パソコンボランティア養成・派遣事業

パソコンボランティアコーディネーター１名配置し、パソコンを利用する在宅視覚障がい者や聴覚障がい者、肢体機能障がい者からの要請を受け、操作や周辺機器の活用に関するサポートを行う登録ボランティアの派遣を実施するとともにボランティア養成研修会を開催し、技術支援、パソコンや福祉制度に関する情報の提供を行いました。

平成３０年度末ボランティア登録者数：６７名　利用登録者数：１０６名

①　登録ボランティア派遣事業　通年実施　派遣件数：１６１件

年度	２１	２２	２３	２４	２５	２６	２７	２８	２９	３０
件数	１５４	１５６	２０９	２１１	１８９	１６４	１５４	１６８	１２６	１６１

②　パソコンボランティア研修会　４月１３日（土）県身障会館　参加者　１２名

③　パソコンボランティア養成講座　　県身障会館

・受講者６名　　８月２５日（土）・８月２６日（日）

・サポーター８名　　９月　１日（土）・９月　２日（日）

・修了者６名（内、ボランティア新規登録者３名、既登録３名）

⑾　視覚障がい者ＩＴ講習会開事業

視覚障がい者に対する「パソコンの基本操作」「文書の作成」「インターネット利用」「電子メールの送受信」等活用の基礎的技術の習得を目的とし、山形市と新庄市において開催しました。

①　村山地区視覚障がい者ＩＴ講習会　　県身障会館

受講者４名　サポーター３名　１１月２３日(金)・２４日(土)・２５日(日)

②　置賜地区視覚障がい者ＩＴ講習会　　置賜総合文化センター

受講者６名　サポーター７名　９月２２日(土)・２３日(日)・２４日(月)

２　芸術文化・スポーツ活動等の普及・振興

芸術文化やスポーツ・レクリエーション活動は、障がい者の生活の質を高め自己実現や体力の増強に効果があり、また、社会参加や仲間づくりの機会としても期待できることから、県内各地のボランティア団体やスポーツ団体等の連携・協力を得ながら事業に取組みました。

⑴　芸術文化活動の推進

①　輝きの芸術・文化作品展

１０月１２日（金）～１６日（火）県身障会館・体育館

出展者１２２名　１団体　応募タイトル数　１９２

②　身体障がい者カラオケ大会　　９月１５日（土）東紅苑

参加者　４３名

③　誌上句会

会員から投句のあった俳句のうち優秀作品を「身障やまがた」に掲載しました。　《選者》胡桃俳句会及び同人誌「初蝶」主催、山形新聞俳壇選者、山形俳人協会幹事長　鈴木正子先生

⑵　スポーツ・レクリエーション事業の推進

①　第１７回山形県障がい者スポーツ大会（兼全スポ大会予選）

・　総合開会式・フライングディスク競技　６月１３日（日）県総合運動公園　参加者　４０４名

・　陸上　　５月２０日（日）　県総合運動公園　参加者　４１６名

・　水泳　　５月２７日（日）　県総合運動公園　参加者　２１７名

・　卓球　　５月２７日（日）　天童市総合福祉センター　参加者　１１５名

・　アーチェリー　５月１３日（日）リハビリセンターグランド　参加者３３名

②　第１７回山形県身体障がい者レクリエーション大会

９月８日（土）総合運動公園　参加者約１,２００名

優　勝　　新庄チーム

準優勝　　寒河江チーム

第三位　　鶴岡チーム

③　第１８回全国障害者スポーツ大会

障がい者の社会参加促進、スポーツ力向上を目的として、県障がい者スポーツ協会が実施する、「福井しあわせ元気大会」への選手団派遣業務に対し、役員として職員を派遣するなどの支援を行いました。

１０月１１日（木）～１０月１６日（火）福井県内各地

選手２１名・役員２４名　計４５名

④　スポーツコーディネート事業・障がい者アスリート支援

障がい者スポーツ協会で設置しているスポーツコーディネーター及び障がい者アスリート支援職員の業務を補助・支援し、障がい者スポーツの普及と選手の競技力向上に向けた取組を支援した。

⑤　本協会が所有する体育施設の活用

本協会が設置管理する身障者体育館やグラウンドを身障者スポーツクラブやレクリエーションクラブの活動に開放するするとともに、必要に応じスポーツ用具の貸し出しを行い、障がい者スポーツの普及・振興に努めました。

⑶　「身障旅行」の実施

群馬県で開催された「第６３回日本身体障害者福祉大会」に参加し、全国の仲間との交流を深めるとともに、群馬県や隣県等の名所旧跡を訪ね見聞を広めました。

６月１３日（火）～６月１５日（木）　参加者　２３名

3　雇用・就労の促進

障がい者が、地域で必要な福祉サービスを活用し自立した生活を送るためには、就労の機会を得ることが大事であり、協会が運営する施設等において障がい者の雇用に努めるとともに、引き続き県立中央病院売店を福祉的雇用事業所として位置付け、障がい者の雇用拡大に努めました。

Ⅲ　共生のまちづくり

障がい者が地域で安心安全に生活でき、自由な社会経済活動を可能とするため、障害者差別解消法及び山形県条例の啓発、普及に努め、共生社会創りを推進するとともに、住宅や道路・建築物・交通機関・情報通信等の環境整備や改善が必要です。

これらの課題解決を図り地域との共生のまちづくりの実現に向けて、市町村等身障協会とともに次の事業に取り組みました。

1　共生社会創りの推進

障がいの有無にかかわらず共生する社会の実現に向けて、平成２８年４月から施行された障がい者差別解消法及び山形県条例の意義や内容について認識を深め、啓発・普及に努めるとともに、市町村協会や障がい別団体、県・市町村等の関係機関・団体との連携を図り、県内すべての市町村での障がい者差別解消条例の制定促進に取り組み、これまでに６市町（山形市・川西町・飯豊町・真室川町・米沢市・長井市）で条例が制定されました。

2　障がい者情報の共有化

個人保護法の施行に伴う、地域障がい者の情報不足に対応するため、市町村行政との連携の強化を図るほか、ブロック別研修会や各種会議の中で、地域に居住する会員が持っている地域の情報を共有し活動することの必要性を訴えました。

3　身体障がい者友愛訪問事業の実施

身体障がい者相談員を活用し、「閉じこもり」や「孤独」になりがちな方を優先に、相談員１人当たり４名を目標として訪問することにより、障がい者の悩みや生活状況等の相談に応じ、併せて、障害者差別解消法や山形県条例の施行について情報提供するとともに希望する合理的配慮について把握を行った。

(1)　訪問実施数　　３５７件

(2)　実施期間　　９月２０日（水）～１２月２２日（金）の３ヶ月間

4　バリアフリーの推進

(1)　「山形県みんなにやさしい街づくり条例」の普及・啓発等

身体障がい者等用駐車施設利用証（パーキング・パーミット制度）の普及促進を図るため、市町村等協会や交通安全友の会と連携し、身障やまがた等を活用し地域障がい者へ啓発を行いました。

(2)　移動・交通対策の推進

① 公安委員会が実施し、交通安全友の会が事務を行っている駐車禁止除外指定車標章の交付・返還事務に協力を行うとともに、適正利用の普及啓蒙に努めました。

② 交通安全友の会と連携し、障がい者の移動・交通対策の各種制度の適正利用促進の普及啓蒙に努めました。

5 地域とのふれあいと交流の推進

市町村等身障協会と連携し、地域活動への参加をよびかけ、近隣住民との交流や、障がい者間の交流促進のため身障協会の各種事業等に身障協会員として積極的な参加を呼びかけ、協会の存在をアピールするとともに、地域住民とのふれあいと交流の促進に努めました。

Ⅳ 災害に備えた対策

東日本大震災の教訓をもとに、地域ぐるみでの防災意識の高揚を図るため、次の事業に取り組みました。

1 災害時の安全対策の確保

(1) 広域災害時総合応援体制の整備

平成２５年７月に締結した、東北・北海道ブロック身体障害者福祉協会相互応援協定基づき、有事の際は広域的に支援できるようネットワークを推進しました。

(2) 防災訓練への参加促進

地域ぐるみの安全安心な地域社会づくりを推進するとともに、災害時における障がい者の避難、安全確保、支援等の在り方を考える機会とするため、９月２日（日）の県・新庄市合同総合防災訓練に、県協会職員と新庄市身体障害者福祉協会会員が参加を予定しておりましたが、最上地区での大雨災害対策により中止となりました。

(3) 被災地への支援活動について

７月に発生した西日本豪雨災害及び８月の山形県戸沢村大雨災害への支援として、市町村等身障協会や協会関係者に支援金を募り、日本身体障害者福祉団体連合会を通して被災地の加盟団体へ送金しました。また、戸沢村身体障害者福祉協会を激励訪問し、支援金を贈呈しました。

Ⅴ 指導者の育成と組織強化

会員の減少や役員の成り手の減少に対応し、組織活動の活性化を図ることは、組織の最も重要な課題であり、重点事業として次の事業に取り組みました。

1 組織強化委員会の開催

※ Ⅰ-２-(4)-④参照。

2 市町村等協会訪問事業

今年度は訪問には至らなかったが、課題が現実的に提起された市町村協会との課題の共有や情報提供、助言を行い、市町村協会活動や財政の課題等について意見交換を図りました。

3　ブロック別市町村等身障協会活性化研修会の開催

※　Ⅰ-2-(4)-④参照

4　仲間づくり声掛け運動促進事業（女性専門委員会事業）

※　Ⅰ-2-(3)-④参照。

5　障がい別組織の育成と連携

(1)　県規模障がい別団体との懇談会

※　Ⅰ-2-(1)参照。

(2)　県及び東北・北海道ブロック障がい者関連団体事務局の受託

①　県身体障害者相談員連絡協議会　　会長　松田英雄

②　東北・北海道身体障害者相談員連絡協議会　会長　松田英雄

6　会員証の発行と利用拡大

平成２７年度から発行した協会の会員証を活用した「山形県身体障害者福祉協会会員割引協力店事業」を実施し、協会が経営する病院売店等の他、各市町村協会においても協力店の拡大に取り組み、平成３０年度までに８６店舗となりました。また、会員証を活用し会員の拡大に繋がるような取組みの推進を図りました。

Ⅵ　総合的対策の推進

1　障がい者の権利拡大運動の展開

障がい者差別解消法などに基づく施策が確実に実施され、実効性のあるものとなるよう日身連等と連携し運動に取組みました。

また、「山形県障がいのある人もない人も共に生きる社会づくり条例」の啓発普及とともに、県内すべての市町村条例の制定に向けた取組を行いました。

2　創立６５周年記念事業の開催

平成３０年度は、本協会が創立６５周年、山形県リハビリセンターが開設５０周年、東紅苑・点字図書館が開所４０周年に当たることから、記念式典及び祝賀会を開催しました。

(1)　開催日　１０月３１日（水）

(2)　場　所　「山形国際ホテル」

(3)　内　容　記念式典・祝賀会（会費制）

(4)　参加者　約９０名

3　「第５０回山形県身体障がい者福祉大会（鶴岡大会）」の開催

障がい者の福祉向上と障害者差別解消法及び県条例の普及を推進し、共生社会の実現を目指して、県内の障がい者や福祉関係者が一堂に会し、会長表彰や知事感謝状の贈呈、主張発表等を行い、県民の理解と関心を高めるとともに、障がい福祉向上の推進を図りました。

⑴　開催日　　７月２７日（金）

⑵　場　所　　「荘銀タクト鶴岡」（鶴岡市文化会館）

⑶　内　容　　歓迎セレモニー：鶴岡中央高等学校天晃太鼓部による太鼓演奏
鶴岡市身体障害者福祉団体連合会・市民有志の皆さんの合唱
知事感謝状及び会長表彰・感謝状贈呈
主張発表：「更なる自分への挑戦」～自分の障がいは自分の個性～
平成２９年度県身障カラオケ大会優勝者による歌唱披露
アトラクション：羽黒高校チアリーディング部等のダンス披露
大会宣言・決議等

⑷　参加者　約１,０３０名

4　知事と身障者代表との懇談会（知事訪問）

会長及び理事等が県知事室を訪問し、「共生社会の実現に向けた取組について」をテーマに、県行政のトップである知事との懇談を行いました。

開催日　１２月２８日（金）
場　所　県知事室
参加者　会長・副会長・常務理事・理事・事務局　計１１名

5　東北・北海道ブロック身体障害者団体連絡会団体長会議

ブロック内身障団体の活動状況や課題等について協議を行い、国・日本身体障害者団体連合会への要望や情報交換を行いました。

期　日　６月２８日（木）～２９日（金）
場　所　仙台市「ホテルメルパルク」

6　関係機関団体との連携

会長等が県の障がい者施策推進協議会をはじめとする各種会議に参画し、福祉施策等に対し、意見陳述した。また、福祉関係機関・団体との連携強化を進め、相乗効果を高めた運動の展開を図りました。

Ⅶ　啓発・広報・表彰

1　障害者週間事業（１２月３日～９日）

県民や会員に障がい者への理解を深めるとともに社会参加を促進し、啓発を図るため、当会車輌運行時に啓発ステッカーを貼付して障がい者差別解消強化月間（１２月）の広報を行うとともにともに、各種研修会等において啓発・広報を行った。

2　広報誌「身障やまがた」の発行

機関紙「身障やまがた」を３回発行し、会員や行政等関係機関・団体に配布し、障がい者福祉関連情報を提供するなど啓発広報に努めました。

3　表彰

第５０回山形県身体障がい者福祉大会における障がい者福祉功労者に対する知事感謝状の推薦や会長表彰等を積極的に行なったほか、各種大会会長表彰の候補者として、地域社会で貢献している自立更生者や障がい者福祉の向上に貢献のあった方々を積極的に推薦しました。

(1)　第６３回日本身体障害者福祉大会

①　日本身体障害者団体連合会会長表彰　高 橋 公 夫　　氏（山形市）

(2)　第５０回山形県身体障がい者福祉大会

①　知事感謝状

更生援護功労者　３名	坂 本 紘 一	氏（庄内町立川）
	柿 﨑 昭 一	氏（金山町）
	蛸 井 喜 市	氏（鶴岡市櫛引）

②　大会会長表彰

安達賞　１名	安 部　眞	氏（川西町）
自立更生者表彰　２７名		
更生援護功労者表彰　５名		
自立更生協助者感謝状　１名		

Ⅷ　福祉施設及び売店の経営

1　福祉施設の設置経営

山形県リハビリセンター事業実績報告を参照。

2　県立施設の受託運営

３施設について、山形県から平成２８年度からの３２年度までの５年間の第３期目の指定管理者として指定を受け、管理運営しています。

また、山形県身体障がい者保養所東紅苑に配置されている、福祉バス「はばたき号」が新車両に更新され、平成３１年３月１日（金）に運行開始記念セレモニーを行いました。

※山形県立ふれあいの家、山形県立点字図書館、山形県身体障がい者保養所東紅苑の各指定管理施設事業実績報告参照。

3　収益事業の運営

県立中央病院売店「ほっとぴあ」の経営に当たっては、病院職員の福利厚生施設的位置付けとともに患者やその家族への支援施設としての役割を踏まえ、良質

な商品を安価に提供できるよう、販売に努めるとともに、協会の会員証により商品の１０％割引を実施し、会員の利用促進に努めました。

また、患者・病院職員等の利用者のニーズに対応した販売に努め、収益の改善を図るため、電子マネーを導入するとともに、平成３１年１月２８日から「ヤマザキショップ（Ｙショップ）」の加盟店となりました。

4　体育施設の管理

山形県身体障害者福祉会館や福祉体育館並びにリハビリセンターに敷設しているグランドを、身障者スポーツ・レクリエーション団体やその支援団体に無料で貸し出しを行い、在宅障がい者のスポーツ普及や交流を促進するとともに、地域住民との交流の場として提供しました。

Ⅸ　生活困窮者への支援（県受託事業）

・村山地区生活困窮者就労準備支援事業

依然として厳しい経済雇用環境の中で、疾病や失業等により生活に困窮するリスクは高い状況にあり、自らの力では自立が困難な生活困窮者に対し協会が有する機能を提供しながら自立を促進するため、就労準備支援担当者を１名配置し、事業を実施しました。

平成30年度

障がい者支援施設　山形県リハビリセンター

（生活介護・施設入所支援）

障がい福祉サービス事業所　山形県リハビリセンター

（就労継続支援B型・就労移行支援・共同生活援助）

相談支援事業所　山形県リハビリセンター

（特定相談支援・障害児相談支援・一般相談支援）

事業実績報告書

社会福祉法人　山形県身体障害者福祉協会

平成３０年度　事業実施状況

◆３月３１日現在の各事業の利用者数

◇就労移行支援事業　　６名　＜通所６名＞
◇就労継続Ｂ型事業　７１名　＜入所３５名・通所３６名＞
◇生活介護事業　　５０名　＜入所２２名・通所登録２８名＞
◇施設入所支援　　５８名　＜男性３４名・女性２３名＞
◇共同生活援助事業　　４名

※入退所者状況

□入所支援　・新規入所者　３名　・退所者　１１名
□通所部門　・新規利用者７名
＜生活介護１名、就労移行２名、就労継続Ｂ型４名＞
・退所者６名
＜生活介護２名、就労移行２名、就労継続Ｂ型０名＞

◆障がい者支援施設・障がい福祉サービス事業所行事等実施状況

○創立記念式・観桜会

□4.20　施設設立50周年の年となったため、体育館で創立記念式を兼ねた観桜会を実施。昼食後、体育館で輪投げやバドミントンやフライングディスク、将棋などのレクリエーションを行い思い思いに楽しんだ。年度初回のクラブ活動を実施、活動内 容についての話し合いなどを行った後、環境整備として、敷地内の草取りを行う。
※会食に家族の会高橋会長出席

○家族の会総会

□4.27　２９年度事業報告と決算、３０年度事業計画・予算案について協議。
総会終了後、環境整備としてご家族の皆様よりプランターに花植えと、食堂の清掃に協力をいただく。

◇役員会　役員参加　　８名
◇総会参加者　　30 家族　　31 名

○家族の会懇談会

10.12　全体で３０年度の上半期の事業報告、活動の状況をまとめたDVDを鑑賞した後、個別面談により、生活の様子や作業状況、健康状況などを説明。

◇懇談会参加者　２９家族　　２９名

○研修旅行

□7.5～7.6

東京方面の１泊２日研修旅行を実施。
リフト付き大型２台、大型１台の計３台のバスで出発。１日目は、宇都宮で餃子の昼食を食べた後、ＮＨＫスタジオパークを見学。夕食は宿泊先のホテルの多国籍ディナーバイキングを楽しみ、その後同じ施設内にあるイルカショーを観覧。２日目は東京タワーを見学した後、東京湾を貸切の船で巡りながらランチをいただき、東京を満喫した旅行となった。

◇利用者　57 名　◇付添職員 24 名　　計 81 名参加

○納涼祭

7.17　実行委員の企画・運営により、グループ対抗ゲーム等で盛り上がる。

○芋煮会

9.18　取引企業の好意により、センター周辺をドローンで撮影いただけるとのことで全員で正面玄関付近に出て撮影した後、体育館で芋煮会を実施。今年も〆にカレーと醤油の２種類のうどんを提供し、好評をいただいた。

○クリスマス会

12.20　実行委員の企画により、クイズやキャンドルサービスなどして楽しんだ。

○一日研修

3.7　山交ボールでボーリングをした後、国際ホテルへ移動し、ひな祭りを兼ねた会食を行う。ボーリング上位者の表彰やビンゴゲームなどで、大変盛り上がった。

○避難訓練

□5.29　過去に高齢者施設等で起きた火災の新聞記事を教材に、避難に必要なのは逃げるための時間の確保と、逃げられる環境の整備という内容の事前学習をし、居室の避難路確保に向けた整理整頓なども呼び掛けた。

□7.25　前々日に京都御所内で起きた火災が、煙草の吸殻の不始末だったことが判明したため、特に喫煙される方々に向けて火の扱いまた吸殻の始末等について確認をした。

□9.10　夜間避難訓練。深夜 11 時に発報し、体育館東側まで避難を行う。地域防災会の方々から協力いただき、有事の際に避難の協力を依頼しており、避難状況を見ていただく。就寝している方もおり、日中の訓練とは違った緊張感があった。

◇入所利用者全員　職員 14 名　大森地区役員・防災会役員 14 名

□10.2　防災訓練実施。北海道胆振東部地震の発生などを受け、今年度は地震を想定して訓練を行う。併せて、大型台風の上陸により、県内でも深刻な水害の被害が生じているため、情報を提供しながら、迅速な避難行動について学習する。

※公衆衛生看護学の一環として県立保健医療大学の学生６名参加

□3.14　避難訓練実施。事前学習の後火災を想定した避難訓練を実施。

※いずれも施設の訓練終了後、グループホームでも火災を想定した訓練を実施し、消火器等の使用について訓練している。

○施設開所 50 周年関連事業

10.31　法人設立 65 周年、センター開始 50 周年、保養所東紅苑・点字図書館開所 40 周年を記念した祝賀会を国際ホテルで開催。各事業から利用者 6 名と、家族の会高橋会長が出席。

11.12　所内で記念の会食を開催。これまでの歩みをたどる DVD を観るなどして、50 年を振り返ったほか、皆さんへ記念品が贈呈された。

○スポーツ大会

□5.20　競技部門（陸上競技）へ参加。

全国障がい者スポーツ大会の予選を兼ねた大会で、100m走、ソフトボール投

げ、立ち幅跳びなどの競技に出場する。全国大会出場を目指し継続して練習に取り組まれている方もおり、意気込みが感じられた。残念ながら全国大会出場の標準記録に届いた方はいなかったが今後に期待したい。

◇競技に 11 名、付添い職員５名

□6.3　競技部門（フライングディスク）へ参加
総合運動公園サブグラウンドで開催された。

◇競技に６名、付添い職員３名

□9.8　県障がい者レクリエーション大会へ施設チームとして参加。
昨年準優勝だったとのことで今年も期待がかかったが、施設チームは全 23 チーム中、９位という結果に終わり、来年のリベンジを誓い合った。

◇参加選手 14 名、付添い職員４名

□9.30　山形市スポーツ大会へ参加。
市内の各地区及び、施設、事業所に分かれたスポーツ大会で、施設チームとして参加。こちらも昨年優勝だったとのことで、今年もと奮闘するも結果は準優勝となり、こちらも来年のリベンジを誓い合った。

◇参加選手８名、付添い職員４名

○リスクマネジメント委員会～食事サービス委員会

□5.29　前回の委員会開催後から提出された事故や事故につながると思われた事案について報告～対応等について確認。その後各委員が点検した安全チェックリストの結果に基づき話し合いを行う。　高橋家族の会長出席。

□9.28　前回の委員会開催後から提出された事故や事故につながると思われた事案について報告～対応等について確認した後、チェックリストに基づいて話し合う。防災マニュアルについて付け加えた方が良いと思われる項目が生じたことから、意見を出し合ったほか、労働災害ゼロ運動への取組についても意思統一を図った。　家族の会高橋会長出席。

□3.13　前回の委員会開催後から提出された事故や事故につながると思われた事案について報告～対応等について確認した後、チェックリストに基づいて話し合う。インフルエンザの集団発生があり、県へ報告するなどあったため、今後の予防策等について意見を出し合った。　家族の会高橋会長出席

○サービス改善委員会（苦情解決委員会）

□9.25　第三者委員の方３名（小西委員、斎藤委員、海谷委員）より来所いただき、参加された利用者の皆さんが日頃の生活で感じていることや、困っていることなど、それぞれの意見を聞いていただき、生活の質の向上のため、委員の方々からもアドバイスをいただいた。利用者の方から、前向きな意見や提案などもあり、実りある委員会となった。

□3.4　小西委員より来所いただき、意見や希望を聴いていただく。職員の対応に対する意見や、食事に対する要望の他、スポーツ大会に参加して他施設の人と交流出来たのが楽しかった、また参加したいといった意見や、31 年度も研修旅行を実施して欲しいなどの要望が出された。

○リハビリセンター運営協議会

7.31 高瀬・楯山・山寺地区で、地域振興に関わっている方々を委員に委嘱し、30 年

度の事業報告を行った他、大森地区内の歩道の修繕について地域と施設協同で働きかけていくことを話し合った。

3.26　31 年度の事業計画の説明や各地域の状況、福祉の動向など話し合う。

◆地域との交流事業

○大森地区共催夏祭り

８月３日（金）実施。町内会の役員と施設の代表により実行委員会を組織し、内容の企画立案から運営、後片付けまで共同で行う。実行委員会へ高橋家族の会長が出席。ご家族の皆さんからも、ボランティア等の協力をいただいた他、地域の子供達も大勢来所してくれ、にぎやかに開催された。

○高楯中学校との交流会

９月４日（火）福祉体験学習に職員２名派遣し、障がいのある方の特性や接し方などについて講義する。その後１３日（木）に３年生約６０名が来所し、車椅子２台を寄贈いただいた他、実行委員がセンターの職員から指導を受け、全員に伝達して練習して来た手話の歌を披露していただく。

○福祉祭

１０月１４日（日）に開催。作品展や模擬店、ダンスコンテストなどで入賞を果たしているアイドルグループ、MPF☆B のステージなどで今回も 1,000 名を超える来場者で賑わった。福祉祭終了後は、高瀬、山寺、楯山、山形市身体障害者福祉協会の各文化祭に作品の展示や施設で作った製品の販売をし、施設のＰＲや交流に努めた。

○実習・研修・職場体験の受け入れ

高楯中学校 ２ 名、山形盲学校１名、楯岡特別支援学校２名、上山高等養護学校１名、村山特別支援学校２名、聖徳短期大学１名、県立保健医療大学６名、山形聾学校１名、県警察学校初任科生１１名、山形養護学校１名の実習の受け入れを実施。

◆保健・医療・衛生

◇９月３日(月)、４日(火)　利用者健康診断実施

※入所支援利用者は全員、通所利用者は希望者

- 再検査の指示があった方については計画的に実施済
- 検診車での検査が困難だった項目があった方については嘱託医にて順次実施
- 婦人科、乳癌検診対象者についても実施済

◇１１月１４日（水）　インフルエンザ予防接種

◇居室棟の消毒実施

- 通年を通して、居室の手すりのアルコール消毒を実施。感染症の流行に併せて薬液も変更し、感染予防に努める。感染症流行時は、居室内についても消毒、換気を実施した。

◇居室の整理整頓の実施

- 支援課の職員、生活担当者と連絡を取り合いながら、入所棟の居室清掃を順次実施。必要な物、もう使わない物の区別がなかなか難しいようで、物が貯まってしまう傾向があり、不用品の処分、きれいな物との入替えなど、支援が必要な状況である。

平成３０年度　職場内研修等実施状況

◆　４月

１日　新任職員研修　～２日

◆　５月　職員ＱＣサークル　※過去のＱＣ事例から学ぶ勉強会

◆　７月

２４日　「最近の障がい者福祉施策の動向について」講師：県障がい福祉課　丸山補佐

◆　８月

２７日　職員ＱＣサークル　※過去のＱＣ事例から学ぶ勉強会

◆　１月

４日　「権利擁護研修」　伝達講習　田中法人事務局長・渡邉職業指導員

３１日　「知的障がい・発達障がいの擬似体験」講師：花笠ホープ隊

障がい者支援施設　山形県リハビリセンター
障がい福祉サービス事業所　山形県リハビリセンター
平成30年度　事業報告書

月別利用者数　　単位：人

	生活介護（定員30名）	施設入所支援（定員70名）	就労継続B（定員70名）	就労移行（定員6名）	共同生活援助（定員4名）
4月	48	63	72	6	4
5月	48	63	73	6	4
6月	48	61	72	6	4
7月	47	60	72	6	4
8月	44	60	74	6	4
9月	46	60	74	6	4
10月	48	60	74	7	4
11月	48	61	73	7	3
12月	45	58	71	7	3
1月	44	59	73	6	4
2月	44	56	71	6	4
3月	44	55	70	6	4
平均	46.2	59.7	72.4	6.3	3.8

月別平均利用者数

	生活介護（定員30名）	施設入所支援（定員70名）	就労継続B（定員70名）	就労移行（定員6名）	共同生活援助（定員4名）
4月	32.4	59.0	66.0	5.3	4.0
5月	32.1	57.6	64.9	5.8	3.9
6月	32.2	58.9	66.6	5.8	3.8
7月	31.1	57.8	65.3	5.7	4.0
8月	29.2	55.0	66.5	5.8	3.8
9月	29.8	57.9	68.0	5.7	4.0
10月	30.8	57.9	65.5	6.8	3.0
11月	30.8	57.9	65.3	6.1	3.0
12月	29.6	54.7	64.8	6.3	3.0
1月	28.7	51.7	62.4	4.2	3.7
2月	28.6	53.9	63.7	5.1	3.1
3月	28.0	52.7	63.7	5.4	3.4
平均	30.3	56.3	65.2	5.7	3.6

◎生活介護並びに共同生活援助は、多少の変動はあったもののほぼ定員通りの利用となった。施設入所支援は、男性1名女子2名の新規利用があったものの、11名が利用終了（逝去5名、転所4名、転院1名、自宅復帰1名）となり著しい減少傾向が続いている。就労継続（B型）についても施設入所支援と同様に、6名の新規利用と8名の利用終了（逝去5名、転所1名、転院1名、自宅復帰1名）があったが、利用率は前年度(65.7名/月)と比較して微減となっている。就労移行については、2名の新規利用と2名の利用終了（就職2名）があり、利用率は前年度（5.5名/月）と比較して微増となっている。

平成30年度　各事業ごとの利用者の状況（平成31年3月31日現在）

障がいの状況　※重複障がいは個別に集計　　単位：人

	生活介護	施設入所支援	就労継続（B型）	就労移行	共同生活援助
視覚障がい	2	2	5		1
聴覚・言語障がい	3	18	25	1	3
肢体障がい	58	64	54		
内部障がい	2		2		
その他（知的・精神）	10	10	24	6	2
計	75	94	110	7	6

◎障害の状況については、肢体障がい者の利用が最も多い。次いで、聴覚・言語機能障がい者の利用が多いため、生活介護・就労継続支援（B型）については、視覚聴覚言語支援体制加算を算定している。なお、就労継続支援（B型）においては、障害基礎年金1級受給者が平均利用者数の25%を超えるため、重度者支援体制加算（Ⅱ）を算定している。

年齢別・性別の状況

	人数（人）	最小年齢（歳）	最高年齢（歳）	平均（歳）	男女平均（歳）
生活介護	男性　31	23	73	57	56
	女性　19	25	82	54	
施設入所支援	男性　35	23	78	61	59
	女性　23	34	85	56	
就労継続（B）	男性　41	19	76	57	51
	女性　30	21	85	44	
就労移行支援	男性　3	29	46	34	28
	女性　3	20	24	21	
共同生活援助	男性　4	29	69	50	50
	女性　－	－	－	－	

◎年齢別に見ると、生活介護・施設入所支援・就労継続支援（B 型）において、高齢化が進んでいることが窺える。今後も若年層の新規利用者の受入れを進めていくことと併せて、高齢者施設への転所などを検討すべき利用者が増加していくことが予想される。

出身市町村別受給状況

H31.3.31 現在

生活介護　入所（２２名）				生活介護　通所（２８名）	
山形市	４名	上山市	１名	山形市	１９名
天童市	５名	新庄市	１名	天童市	６名
東根市	４名	河北町	１名	村山市	１名
村山市	３名	福島市	１名	尾花沢市	１名
南陽市	１名	八幡平市	１名	鮭川村	１名

就労継続支援Ｂ型　入所（３６名）					
山形市	６名	酒田市	１名	大石田町	１名
天童市	６名	新庄市	３名	大蔵村	１名
東根市	２名	村山市	１名	河北町	１名
南陽市	２名	米沢市	２名	中山町	２名
尾花沢市	１名	白鷹町	１名	大江町	１名
寒河江市	１名	朝日町	２名	福島市	１名
鶴岡市	１名				

就労継続支援Ｂ型　通所（３５名）		就労移行支援（６名）	
山形市	２６名	山形市	５名
天童市	３名	天童市	１名
新庄市	１名		
南陽市	１名		
上山市	１名		
山辺町	２名		
鴨川市	１名		

平成３０年度　生活介護事業実績報告

生活介護事業では、利用者のニーズに合わせて作業や創作活動、機能訓練などを実施しており、それぞれやり甲斐や目標を持って活動に参加していただいている。

作業面では、自動車に使われている小さい部品の組み立てや、タウン誌等の封入を積極的に取り組んで頂いている。細かい作業ではあるが、皆さん大変やりがいを感じているようであり、今後も作業を希望される方には心身に無理のない範囲で作業を提供し、社会との繋がりや達成感を感じてもらえるよう努めていきたい。

創作活動については、外部から各種講師を招き、書道・絵手紙・七宝焼等を実施している。ステンシルの講座では、キーホルダーなどオリジナルの作品を作れると好評をいただいた。また、自分で作った作品を普段の生活の中で使用する方も多く、「自分で作った」という満足感や充実感を感じているようである。

機能訓練については、月に１回理学療法士を招き、より安全で効果的な訓練活動が出来るよう助言を頂きながら取り組んでいる。今年から新たに実施したカローリングは、底に３つの車輪が付いたジェットローラーと呼ばれる円盤を、押し出す力を加減しながらポイントゾーンにうまく止めることを競うニュースポーツで、氷の上でなくてもカーリング感覚が楽しめると大変好評だった。

外出レクについてはショッピングを主体に実施した。また、７月には山形市野草園を訪れ、広大な敷地を散策しながら豊かな自然に触れることができた。今後とも職員やボランティア利用等で介助員を確保し、安全に実施できる状況を作れるよう努力していきたい。

日常生活面に於いては、利用者の方がご自身で行うのが困難な事は引き続き支援し、様々な活動に積極的に参加出来るよう働きかけしていきたい。

◇生活介護事業の一日の流れ

8:15～	10：15～	12：00～	13：00～	14：00～
ﾗｼﾞｵ体操 体調確認 一日の説明	生産活動 機能訓練	昼食 休憩	創作活動 機能訓練 レクリエーション等	入浴(月・水・金) ※入所のみ

◇主な活動内容

○機能訓練・・・・身体機能の維持向上を図るため随時実施。また月に１回理学療法士の指導による機能訓練を行う。

○創作活動・・・・外部講師や専任職員により書道、絵手紙、七宝焼、菓子パン作り、そば打ち、パステルアート等を実施。

○軽スポーツ・・・身体機能の向上と心身のリフレッシュを図ることを目的に実施。

○ﾚｸﾘｴｰｼｮﾝ・・・・外部講師を招き、健康体操、音楽、民謡等を実施。

○生産活動・・・・就労継続支援Ｂ型事業から委託を受ける形で、簡易的な作業を用意。売上金を作業時間に応じて工賃として分配。

生活介護事業等実施状況

（期間：平成30年4月～平成31年3月末現在）

事業内容	内　容	資格又は所属	回数
機能訓練	機能訓練	理学療法士	7
	〃	専任	209
健康相談	血圧測定など	施設看護師他	239
送迎サービス	送迎（送迎バス他）	専任運転手他	240
給食サービス	給食	（会食会含む）	239
生産活動	簡易作業	タウン誌等の封入作業など	239
創作活動	小物作り	専任	153
	書道	書道講師	10
	絵手紙	絵画講師	10
	七宝焼	七宝焼講師	9
	ステンシル	ｵｵﾔﾏﾆｯﾃｨﾝｸﾞｽｸｰﾙ主宰	11
	パステルアート	パステルアート講師	9
	菓子パン作り	専任	3
	そば打ち	そば打ち講師	1
	陶芸	陶芸講師	1
軽スポーツ	軽スポーツ全般	専任・スポーツ指導員	2
	吹き矢	吹き矢講師	9
	カローリング	スポーツ指導者	4
レクリエーション	健康体操	スポーツインストラクター	9
	民謡教室	民謡講師	9
	音楽教室	音楽講師	10
	ふれあいサロン	ボランティアサークル　カモミール	1
	クリスマス会(ギターコンサート)	ギター講師	1
社会参加事業	ショッピング	イオン天童店	1
	〃	イオン山形北店	3
	〃	ヤマザワ北店	1
	避難訓練	県リハビリセンター	3
	夏祭り(大森地区共催)	県リハビリセンター	1
	高楯中との交流会	県リハビリセンター	1
	福祉祭	県リハビリセンター	1
		総実施回数	1,436

平成３０年度就労支援事業実績報告書

作業科目	目標額	決算額	達成率
縫製科	5,285,000	5,528,541	105%
印刷科	10,368,000	8,721,526	84%
簡易作業科	5,777,000	5,819,959	101%
食品加工科（大豆飲料）	11,050,000	9,527,630	86%
食品加工科（パン）	25,460,000	25,471,767	100%
就労支援事業　計	57,940,000	55,069,423	95%
売店　計	10,000,000	10,651,814	107%
総計	67,940,000	65,721,237	97%

縫製科

敷布団の縫製や病院用Ｔ字体・腹帯等の製造は継続して行っている。昨年度は、会議や地域見守り隊等で使用するトートバッグの受注をいただき、売上に大きく貢献している。また、継続して実施しているタオルたたみ作業の発注業者より、新たに浴衣の補修やタグ付けの作業をいただいている。売上げとしてはまだ大きくないものの、作業の幅を広げることができた。今後も継続実施の作業に加えて、会議や大会等のイベント情報をいち早く掴み、記念品やグッズ等の需要を掘り起こしていきたい。

印刷科

年賀状や保育園の卒園文集や各団体の総会等の資料については、概ね例年通りの受注をいただく事が出来た。更に、容器へのラベル貼りやパッケージ組み立て、農業資材の封入梱包等の作業も順調に受注が増えており、利用者の作業能力も向上し、より多くの作業をこなす事が出来た。今後も地域や関係団体を中心に受注の拡大に努めていきたい。
３月より、点字入りの名刺製造がスタートし、県や市などの行政関係へアプローチしながら優先調達物品としての登録を終えている。既に何件かの受注を頂き、利用者が中心となり作業を進めている。特に校正については、視覚障害をお持ちの利用者や点字図書館の協力をいただき取組みを進めている。今後も点字のルールや読み取りやすい配列等を勉強しつつ、多くの受注に応えられるよう努めていきたい。

簡易作業科

紙器加工や封入封緘、生花ラッピング、自動車部品組立等の作業は継続して受注している。昨年度は更に将棋の駒彫り機を導入し、駒だけではなくプラ製ペンケースの名入れ等記念品としての受注を頂くことができた。今後も様々なアイディアを試しながら、ノベルティグッズとしての需要を探っていきたい。

昨年度一杯で山形市の水道メーター分解作業が終了し、新たな作業を検討していたところ、山形市をはじめとした広域事務組合である山形環境保全協同組合よりポケットコイル解体作業の受託が決定。４月より稼働開始する。作業工程が「組立て」ではなく、「解体」であるため、細かい作業が苦手な利用者の方々も携われる作業として期待を寄せている。

食品加工科（大豆飲料、米菓子、その他）

１月より地元スーパー３店舗にて大豆飲料の販売を開始、継続して受注を頂いている。新たに乳酸菌が入った大豆飲料の周知を目的とした「優豆生だより」を、年４回程度を目安に発行している。今後もポップやチラシ等を積極的に活用しお客様に様々なアプローチを図っていきたい。また、昨年度準備を進めていた山形県学校給食センターとの取引契約を３月に締結、とうふキャラメルプリンの学校給食取引が決定している。大量納品にもスムーズに応えられるよう準備していきたい。

食品加工科（パン製造）

ほっとぴあや山形・天童市役所売店、県立高校４校等の販売等を継続して実施、売上も順調に推移している。当施設で運営している県総合運動公園売店「フレンドショップ」も大会等各種イベントでの出張販売を実施、好評を得ている。

９月に県食品加工支援ラボの協力を仰ぎ、缶入りパンの試作を実施。令和元年９月に保菌検査を受け、結果が良好であれば賞味期限３年の科学的根拠とすることができるため、設備整備を含め、本格稼働に向けた準備を進めていきたい。

リニューアルオープンに向けて準備している天童温泉道の駅内「ＪＡフーズてんどうサンピュア店」が、新年度４月より新規取引先として決定している。

工賃の支給状況について

平成 23 年 4 月の事業体系の移行以来、当施設では月額工賃制を採用している。平均工賃については、昨年度の 16,058 円を上回る 16,131 円を支給している。今後も工賃の向上に努めていきたい。

	平成 29 年度	平成 30 年度
年間売上高	71,315,134 円	65,721,237 円
工賃支払総額	13,906,500 円	13,566,000 円
平均工賃月額	16,058 円	16,131 円

※参考　平成 29 年度　工賃向上計画（山形県）の対象となっている県内 135 施設の平均工賃額：11,016 円

平成３０年度　就労移行支援事業実績報告

就労移行支援事業は８年目に入り、障がいの多様化、利用者一人ひとりの就労に対する温度差、経験や準備段階のちがいがある中、企業や就労支援関係機関等と連携しながら、個別対応を中心に、基本的な労働習慣の定着、働く場でのマナーやスキルの習得など、ご本人の希望や適正に応じた訓練を行い、長所を伸ばす支援を重点に活動を行ってきた。

１．利用者の推移

平成 ２９年度からの継続利用者数は ５ 名。新規利用者は２名。利用終了者は２名（内訳：就職者２名）となった。

２．主な訓練・活動

一人ひとりの課題等に応じて具体的な目標や支援内容を設定し、定期的に成果を確認しながら「就職」に向けての歩みを進めている。

所内の作業訓練では、複数の作業を通じて、作業適正を検討し訓練を行った。資材の準備から納品準備まで一連の作業を自発的に進める等、より実践的な取り組みも行っている。また、勉強会では、職場でのマナー、コミュニケーション、社会人としての心構え、働くことの大切さを考える職業講話、面接の受け方、履歴書の書き方等を行い、一般就労への意欲や自信を深めている。

所外活動では、ハローワークでの定期的な求職活動、ふれあい合同面接会への参加、職場実習等、一般就労に向けた活動を通して課題や目標の再確認を行った。また、年 ２ 回自立した生活をめざし調理実習を実施。作業実習では得ることのできない共同作業体験を通してコミュニケーションの重要性を確認できた。更に、新たに就労継続支援 Ｂ 型事業で運営している県総合運動公園売店にて、より実践に近い環境での販売体験等を通し、就労意欲の向上に繋げていきたい。

３．チーム支援と関係諸機関との連携強化

利用者の個別状況に応じて必要な連携を念頭に置き、就労・生活支援センター、ハローワーク、障害者職業センターなどの就労支援機関と協力し、情報共有や役割分担を行いながらのチーム支援を実施している。今後は関係機関との定期的な情報交換が実施できるよう関係の強化を目指したい。

４．就職者へのフォローアップ

就職者の職場定着や就労継続の為の支援は、必要に応じて訪問、ケア会議の開催、相談などを事業主、就職者やご家族に行っている。障がい者雇用を進める地域社会に向けて専門性を発揮し、地域貢献を進めることの重要性を認識し取り組んで行きたい。

また、平成３１年度より開設する「就労定着支援」により、就職者のフォローアップを主体的により長期間にわたり実施できることになり、改めて就職者に対して、安心して働き続けることのできる環境づくりについて、周知を図っていく。

平成３０年度　共同生活援助事業実績報告

1. 概況

開設から３年目を迎えた共同生活援助事業『グループホーム東山住宅』。現在は、４名の利用者の方々がリハビリセンターの就労継続支援Ｂ型（3 名）と就労移行支援（1 名）を通所利用しながら生活を送っている。今後も安心・安全を確保しながら、利用者の方々の意向を尊重し家庭的な環境の下でサービスの提供ができるよう取り組んでいきたい。

2. 利用実績

入居者数（定員４名）

平成３０年									平成３１年		
４月	５月	６月	７月	８月	９月	10月	11月	12月	１月	２月	３月
４	４	４	４	４	４	４	４	３	４	４	４

3. 共同生活援助事業の主なサービス内容　※重要事項説明書より抜粋

①食事

月曜日から金曜日までの朝食及び夕食を提供いたします。

ただし、管理者の特に定める日、国民の祝日及び１２月２９日から１月４日までの間は除きます。また、土日祝日については、食事を提供する場合があります。

（食事時間）　朝食　７：００～　８：００　　夕食　１８：００～１９：００

②日常生活支援

利用者の状況に応じて、洗濯や掃除など日常生活における必要な支援をします。

③日中活動支援

日中、生活介護や就労継続支援Ｂ型等他のサービスを利用する場合、また就労している場合、サービス提供事業者や職場等と連絡・調整を行い、利用者の活動を支援します。

④健康管理の支援

常に利用者の健康状況に注意し、協力医療機関を通じて健康保持のための適切な支援を行います。

⑤金銭管理の支援

小遣い帳への記帳など、利用者が自ら金銭管理を行うことができるよう支援します。福祉サービス利用支援事業の利用について支援します。

⑥介護給付費・訓練等給付費支給申請の支援

介護給付費・訓練等給付費の支給期間終了後も継続して支援を受けることができるよう、再度支給決定を受けるための申請を行う際に、必要な支援をします。

⑦行政手続の代行

手続の代行を希望される場合は、職員にお申し出ください。なお、手続に係る経費は別途支払いただきます。

⑧地域との交流

地域の自治会に加入し、地域活動や行事に参加できるよう支援します。

平成３０年度　相談支援事業　事業報告

１．概況

事業開始より５年目を迎えた相談支援事業では、前年度に引き続き、利用者やその家族の課題解決、希望する生活の実現に向け取り組みを進めてきた。様々な不安や悩みに対応し、生活上の助言や情報提供を行うと共に、適切かつ効果的な福祉サービス利用ができるようプラン作成や定期的なモニタリングを行った。

２．利用実績　（請求数ベース）

サービス等利用計画 作成件数　（更新/新規）

平成 30 年									平成 31 年			
4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	計
21	2	4	12	4	3	11	1	7	3	5	3	76

モニタリング件数

平成 30 年									平成 31 年			
4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	計
3	7	3	5	5	19	5	9	20	6	4	42	128

サービス等利用計画の作成件数は、更新と新規合わせて計 76 件。その内訳は、リハビリセンター入所利用者 21 件、通所利用者 23 件、他事業所利用者は 32 件となった（内 2 名は相談支援実施によってリハビリセンター新規利用へと繋がったケース）。また、モニタリングは計 128 件実施し、継続したサービス利用をサポートしている。

市町村別相談支援件数（76 件中）

山形市	20 件	東根市	4 件
天童市	12 件	上山市、尾花沢市、山辺町	3 件
酒田市、新庄市	7 件	米沢市、金山町、朝日町、福島市	2 件
村山市	5 件	長井市、中山町、河北町、鴨川市	1 件

営業区域の山形・天童だけでなく、村山圏域を中心に近隣市町村の方からも多くの依頼をいただいた。

３．関係機関との連携

山形市自立支援協議会相談支援部会へ毎月参加。山形市内の各相談支援事業所と情報共有を図るとともに、事例検討会や研修を通して、支援力の向上を目指している。さらに、定例協議会の委員も担当し、山形市全体の障がい者福祉について協議、検討を行っている。

また、最近の傾向として、利用者の高齢化や状態像の変化に伴い、65 歳以上の方を中心に、介護保険施設へと移行するケースが多くなっている。ご家族の協力を得ながら、市町村や地域包括支援センター、ケアマネージャーなどと連携を図ることで、スムーズな移行と継ぎ目のないサービス利用へと繋げている。

平成３０年度障がい者福祉ホーム山形県立ふれあいの家事業報告書

１．　事業の目的

障がい者福祉ホームふれあいの家は、障がいのため家庭において日常生活を営むのが困難な方に対し、低額な料金で日常生活に適するような居室その他の設備を利用出来るようにすると共に、日常生活また自立に向けて必要なサービスを提供し、福祉の増進を図ることを目的とする。

２．　定　　員　　20　名

３．　利用状況

平成３０年４月１日から平成３１年３月31日までの月別の入居状況は下表の通りである。

８月２日付で老人施設への入居が決まった方が転居し、１室空室となったが、１１月に１名入居し満室となっている。

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
人	２０人	２０人	２０人	20人	２０人	１９人
10月	11月	12月	1月	2月	3月	延人員
１９人	１９人	20人	20人	20人	２０人	237人

※1日現在

４．　入居状況

	現	在		備　　考
性　別	男	女	計	県内　１９　・　県外　１
人	１６	４	２０	県内１０・県外１市町村より入居

５．　障がいの状況

肢体障がいが多くを占めており、１～２級の重度の方の割合が全体の７５％となっている。手帳には現れていないが、障がいに起因する感情や気分の変調、うつ傾向、てんかん発作等への対応が増え、それに伴い生活の中での対人関係を調整する場面も多くなっている。また、情緒については、作業面にも影響があることから、日中事業所や相談支援事業所との連携が欠かせない状況になっている。

障がい	人	状　　況
肢　体	１６	１・２級１２名、３～６級４名
視　覚	２	１級１名、６級１名
聴　覚	２	２級２名

※　療育手帳保持者３名、精神保健福祉手帳所持者１名

６．　年齢の状況

年齢	30~39	40~49	50~59	60~69	70~	平　均
男　子		1	5	9	1	61.3
女　子	1	1		2		51.8
合　計	1	2	5	11	1	59.4

※　一番若い方で３９歳、最高齢者で７６歳となっている。６５歳以上の方は８名利用されている。

7.　日中活動の状況

大半の方が就労継続支援Ｂ型を利用されており、就労継続支援Ｂ型と生活介護事業を併用されている方が１名、介護保険サービスを利用されている方が１名、また訪問リハビリを利用している方が１名と、障がいの状況や年齢に合わせたサービス利用がうかがえる。

一般企業	2
ワークショップ明星園	8
山形県リハビリセンター	8
あゆみケアセンター	1
ピース大林	1
合　　計	20名

8.　行事等実施状況

□4.23　明星園との打ち合わせ（明星園にて　職員１名参加）
□8.2　所内ワックス掛け（全職員）
□7.28　納涼祭　自治会主催
□8.10　明星園との打ち合わせ（ふれあいの家にて　職員１名参）
□12.16　クリスマス会　自治会主催
□12.14　明星園との打ち合わせ（明星園にて　職員１名参加）

9.　地域との交流

□8.4　長町７区ビアパーティ　自治会長ほか５名参加
□8.25　カルチャー教室（陶芸　山寺焼き）地域住民・利用者・職員14名参加
□10.14　リハビリセンター福祉祭　作品出品
□10.13～14　千歳地区コミュニティセンター文化祭　作品展示
□10.27～28　山形市身体障害者福祉協会文化祭作品出品
□12.1　カルチャー教室（豆腐を使った料理）地域住民・利用者・職員11名参加
□1.26　カルチャー教室　そば打ち　地域住民・利用者・職員17名参加
□3.2　利用者対象料理教室　利用者・職員８名参加

10.　苦情（要望）受付

・受付書記入１件

匿名で地域住民の方より、エアコン室外機の音がうるさいと苦情があった。機器設置メーカーへ依頼し、室外機の設定変更にて対応した。設定変更後、苦情はなかった。

・その他の苦情（要望）申し立て

個人的な生活の相談に関する要望が２件あり、経過を見ながら適時話しをするなどの支援を継続している。

・サービス改善委員会(苦情解決委員会)

９月、３月開催。９月は利用者２名、３月は３名参加。職員２名ずつ参加。普段の生活で改善して欲しい点や要望について第三者委員の方々から話しを聴いていただく。改善出来る物については対応し、職員全員が内容について把握している。

11.　リスクマネジメント

・報告書提出１件

緊急医療対応、居室での転倒による怪我。

・ヒヤリハットレポート提出１４件

怪我に至らない転倒や移乗時の転倒、夜間の不調、食事の提供に関する確認ミスなどの報告が出ている。

・１１月にリスクマネジメント委員会を開催し、施設内の自主管理シートの記入と、改善箇所について検討。また、ヒヤリハット報告や事故報告のまとめについて検証した。防災マニュアルについても、現状に即した内容に変更している。

12.　避難訓練

４月、６月、８月、１１月、１２月、２月に実施。火災報知器の始動から通報訓練、初期消火、避難誘導と一連の流れを全職員が把握出来るように工夫し訓練を行っている。

９月に消防署からの立ち入り検査が実施されたが、指摘事項はなかった。

13.　職場研修

□5月　他事業所で開催された介護保険研修　１名受講し資料を回覧し全員に伝達

□7月　障がい児・者職員研修２　１名受講し資料を回覧し全員に伝達

□7月　熱中症応急処置　バックアップ施設より資料提供あり全職員回覧し対応について確認

□1月　新春職場内研修　２名参加し全員へ伝達

□1月　知的・発達障がい者疑似体験研修会　２名受講し全職員に伝達

□2月　虐待防止について　法人虐待防止委員会の内容について全員へ伝達

14.　事業の成果

ふれあいの家は、重い障がいを持つ人も必要な支援を受けながら地域で自分らしく安心して生活するため、施設と在宅の中間的環境を備え、自立した生活を構築するために必要な知識や技能の習得を支援する社会資源と言える。

こうした観点から、今年度も利用者１人１人の個別性とニーズを尊重しながら生活に必要な技能習得に向け支援を行った。担当相談支援専門員、日中サービス利用事業所、介護支援専門員など、関係各機関との連携を図り、生活の質の向上に努めている。

具体的には、

① 年間を通して、火災や地震、食中毒、感染症など、資料の掲示や呼びかけなど時期に合わせた注意喚起を行い、意識して生活出来るよう支援を行った。またリスクマネジメント委員会を開催し、ヒヤリハットレポートや安全チェックシートの検証を行い、情報共有、早期対応の徹底などにより、施設としてのリスク管理に努めた。

② 自ら行うことが難しく支援が必要なことも、可能な範囲で本人から力を発揮していただけるよう、個々の支援内容を考え職員間で共有し、能力や意思を引き出せるような支援に努めた。

③ バックアップ施設の管理栄養士を講師に、利用者のみを対象にした料理教室を開催し、自立・自活に向けた意識や意欲の向上に向けて働きかけた。

平成30年度　山形県立点字図書館事業実績報告書

1 概要

点字図書・録音図書の整備、貸出しについて、利用者の読書意欲に迅速かつ適切に対応するため、「全視情協」が運用している「視覚障害者情報総合ネットワーク（サピエ）」を活用し、県外の点字図書館と連携を図り利用者のニーズに沿って対応した。また、図書の貸借管理等を行う管理システム「Web図書館システム」を運用し、適切な業務の推進を図った。

また、県内の視覚障がい者に広く点字図書館を周知するとともに、利用者の交流や、福祉機器、生活に関する情報提供等を目的として交流会や移動点字図書館を開催した。さらに電話や来館による各種相談に応じるとともに、プライベートサービスや盲人用具の斡旋などの各種サービスを提供した。

なお、図書製作等の専門的知識の習得など技術向上を図るためボランティアを各種研修会に派遣するとともに、25名の受講生による新規のボランティア養成講習会（29・30年度の2年間）を開催した。

なお、図書館利用登録者については、21名の新規登録者があったが、逝去等により24名の登録者が減少したため、差引き3名の減となった。

2 図書貸出・製作等の業務報告

（1） 利用登録者数

① 平成30年度　623名　（H31年3月末）

② 平成29年度　626名　（H30年3月末）

（2） 図書貸出数（H31年3月末現在）

区　分	30年度	29年度
点字図書	1,682冊	1,769冊
録音図書	5,159巻	6,374巻
CD図書	5,792枚	5,405枚

（3） 逐次刊行物貸出数（H31年3月末現在）

区　分	30年度	29年度
点字	3,714冊	3,855冊
録音	5,807巻	6,158巻

（4） 蔵書数　（H31年3月末現在）

区　分	タイトル数	冊・巻数
点字図書	7,564	24,361
点字データ	1,586	6,756
録音図書	5,373	32,022
CD図書	4,688	4,703
テキストデイジー図書	31	31
計	19,242	

（5） 受入数　（H31年3月末現在）

区　分	タイトル数	冊・巻数
点字図書	127	348
点字データ	66	214
録音図書	1	1
CD図書	156	156
テキストデイジー図書	31	31
計	381	

（6） 各種サービス（H31年3月末現在：（ ）内は前年度末現在）

① プライベートサービス	（個人所有の資料の点訳・音訳・打出）	24 （ 36 ）	件
② レファレンスサービス	（個別調査依頼対応）	49 （ 49 ）	件
③ リーディングサービス	（対面による音訳）	0 （ 1 ）	件
④ コピーサービス	（個別複製対応）	80 （ 33 ）	件
⑤ 盲人用具の斡旋	（点字用紙、小型点字器等）	73 （ 69 ）	件

（7） サピエ個人会員数（H31・30年3月末現在）

30年度	77人
29年度	73人

（8） 点字図書館ボランティア

（H31年3月末現在）

点訳ボランティア	56名	音訳ボランティア	44名	音訳校正ボランティア	10名
音訳編集ボランティア	11名	図書管理ボランティア	2名	テキストデイジーボランティア	13名
合　計	136名	※合計は延べ人数である。			

3 即時情報ネットワーク事業（地域生活支援事業）

（1） 点字ニュース即時提供システム（JBニュース：日本盲人会連合が提供する新聞情報等）

① 40人利用、希望により月～金まで又は週1回郵送。

② 1部10ページ延べ3,448冊配布

③ メール配信希望者10名に毎日データ配信　送信件数　延べ　2，204件

（2） 音声による新聞情報提供システム（電話ナビゲーションシステム）

① JBニュース（全国版、24時間常時アクセス可能）

② 地域ニュースの提供

4 点訳・音訳ボランティア養成事業（地域生活支援事業）

（1） 点訳・音訳ボランティア養成

① 点訳ボランティア養成受講者（新規）9名・・・・・・2時間23回（フォローアップ講習会を含む）

② 音訳ボランティア養成受講者（新規）8名・・・・・・2時間16回（フォローアップ講習会を含む）

③ 音訳校正ボランティア養成受講者（新規）5名・・2時間15回（フォローアップ講習会を含む）

（2） 点訳ボランティア研修会

英語点訳について

＊ 開催日：平成30年11月5日（月）

＊ 参加者：25名

（3） 音訳・音訳校正・音訳編集ボランティア研修会

点字図書館を利用して　音訳・音訳校正意見交換会

＊ 開催日：平成30年11月27日（火）

＊ 参加者：43名

（4） 音訳校正ボランティア研修会

平成30年度音訳指導員講習会の報告

＊ 開催日：平成31年1月16日（水）

＊ 参加者：14名

5 中途失明者緊急生活訓練事業（地域生活支援事業）

（1） 生活訓練：来館・電話による相談件数　88件

（2） 点字指導：読み方・書き方指導件数　35件

（3） 中途視覚障がい者交流事業の実施

〈寒河江市〉

日　時　平成30年6月28日（木）13:30～16:30

場　所　ハートフルセンター

参加者　総数23名（視覚障がい者12名、ご家族・関係者ほか11名）

〈上山市〉

日　時　平成30年7月19日（木）13:30～16:30

場　所　上山市中部地区公民館
参加者　総数16名（視覚障がい者3名、ご家族・関係者ほか13名）

〈遊佐町〉
日　時　平成30年8月23日（木）13:30～16:30
場　所　遊佐町生涯学習センター
参加者　総数13名（視覚障がい者7名、ご家族・関係者ほか6名）

〈新庄市〉
日　時　平成30年9月12日（木）13:30～16:30
場　所　最上広域交流センター　ゆめりあ
参加者　総数17名（視覚障がい者8名、ご家族・関係者ほか9名）

〈飯豊町〉
日　時　平成30年10月18日（木）13:30～16:30
場　所　飯豊町町民総合センター
参加者　総数5名（視覚障がい者1名、ご家族・関係者ほか4名）

〈長井市〉
日　時　平成30年10月23日（火）13:30～16:30
場　所　長井市老人福祉センター
参加者　総数23名（視覚障がい者8名、ご家族・関係者ほか15名）

〈山形市〉
日　時　平成30年11月8日（木）13:30～16:30
場　所　山形市市民活動支援センター（霞城セントラル23階）
参加者　総数32名（視覚障がい者17名、ご家族・関係者ほか15名）

内容　＊情報交換・交流会　＊新型プレクストークの紹介
＊白杖の使用について　＊日常生活用具紹介展示・体験

（4）山形市身体障がい者福祉制度説明会　月1回

6　サピエ活用事業

（1）図書管理システムの活用
（2）全国の図書館図書検索、オンラインによる図書の貸借等
（3）平成30年度送信数

① 書誌登録数	【 点字 】	79 件	【テープ】	0 件	【 CD 】	86 件
② 所蔵登録数	【 点字 】	127 件	【テープ】	1 件	【 CD 】	156 件

7　点字図書館普及事業（移動点字図書館）

（1）長井市社会福祉協議会「ふれあい福祉まつり」：長井市
＊ 開催日：平成30年9月22日（土）
＊ 内　容：点字図書館のPRと福祉機器の展示・体験等
（2）山形県立中央病院「あおやぎ祭り」：山形市
＊ 開催日：平成30年9月23日（日・祝）
＊ 内　容：点字図書館のPRと福祉機器の展示・体験等
（3）リハビリセンター「福祉祭」：山形市
＊ 開催日：平成30年10月14日（日）
＊ 内　容：点字図書館のPRと福祉機器の展示・体験等

8 ボランティア支援事業

（1） 第48回東北・新潟・北海道ブロック点字図書館等連絡協議会（音訳部会研修会）への派遣
＊ 開催日 :平成30年9月13日（木）～14日（金） 新潟県
＊ 参加者 :ボランティア4名、職員1名

（2） 音訳指導技術講習会 第37回指導員講習会への派遣
＊ 開催日 :平成30年12月6日（木）～7日（金） 大阪府
＊ 参加者 :ボランティア2名、職員1名

（3） ボランティア顕彰者
① 第66回全国盲人福祉施設大会（平成30年6月21日（木）～22日（金） 山口県）
ボランティア表彰者 中田 均（点訳ボランティア）
桝川 笙（点訳ボランティア）
② 第68回 山形県県民福祉大会（平成30年11月20日(火) 天童市）
社会福祉事業・奉仕者（個人）会長表彰 宮下 貞子(音訳ボランティア
玉熊 良子(音訳校正ボランティア)

9 OA化促進事業

備品整備 : プレクストークポータブルレコーダー PTR3（2台）

10 点字図書館運営懇談会の開催

点字図書館の運営について、行政、障がい者団体、ボランティア団体及び苦情解決委員による意見交換を実施した。

（1） 開催日等 : 平成30年7月23日（月） 保健福祉センター 3階 中会議室

（2） 参 加 者 : 県障がい福祉課課長補佐、県立山形盲学校長、山形点訳赤十字奉仕団委員長
音訳ボランティアグループ代表、山形県視覚障害者福祉協会長
県身体障害者福祉協会常務理事、苦情解決委員、点字図書館長及び職員

（3） 懇談内容 :
① H29年度事業実績について
② H30年度事業計画について
③ 利用者アンケート結果について
④ 利用者登録の促進について

平成30年度山形県身体障がい者保養所東紅苑事業報告書

1　事業の概要

東紅苑の運営については、安全と安心を基本とした親切で丁寧な応対とサービスにより、利用者に満足していただけるよう努めてまいりました。

結果として、宿泊利用者については、前年度と比較して345名の減となりましたが、従前からの利用者の高齢化等による利用減が主な原因と考えられます。一方、休憩利用者については、121名の増となりました。

事業収支につきましては、人件費増や老朽化した施設・設備機器の修理等に係る費用負担がありましたが、コスト意識を持って経費の削減に努めるなどした結果、利用者の減少に伴う営業収入の減少に対応することができました。

2　施設の利用状況

(1) 宿泊利用者

(単位:人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
平成30年度	367	352	316	275	298	298	466	477	371	335	294	396	4,245
平成29年度	466	432	278	434	377	388	490	461	373	310	277	304	4,590
増　減	△ 99	△ 80	38	△ 159	△ 79	△ 90	△ 24	16	△ 2	25	17	92	△ 345

(2) 休憩利用者

(単位:人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
平成30年度	103	133	144	96	39	135	177	48	79	105	91	106	1,256
平成29年度	110	129	129	74	86	80	181	65	55	112	72	42	1,135
増　減	△ 7	4	15	22	△ 47	55	△ 4	△ 17	24	△ 7	19	64	121

(3) 入浴のみ利用者

(単位:人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
平成30年度	338	339	302	249	272	264	276	326	398	440	384	393	3,981
平成29年度	464	459	360	363	313	406	399	494	470	549	497	480	5,254
増　減	△ 126	△ 120	△ 58	△ 114	△ 41	△ 142	△ 123	△ 168	△ 72	△ 109	△ 113	△ 87	△ 1,273

(4) 会議室利用

(単位:回)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
平成30年度	7	4	5	1	4	11	9	7	7	2	3	9	69
平成29年度	9	2	4	5	4	13	9	9	5	4	2	10	76
増　減	△ 2	2	1	△ 4	0	△ 2	0	△ 2	2	△ 2	1	△ 1	△ 7

3　主な行事の実施状況

(単位:人)

実施行事名	実施日	参加者		摘要(前年度)
		人数	対前年比	
カラオケ・芸能交流会 計 305名(前年比 +43名)	平成30年4月13日	72	△ 19	91
	平成30年7月19日	83	35	48
	平成30年11月19日	87	12	75
	平成31年2月15日	63	15	48

グラウンド・ゴルフ交流会 計 111名(前年比 △8名)	平成30年５月30日	42	6	36
	平成30年９月20日	36	△ 10	46
	平成30年10月19日	33	△ 4	37
バーベキュー交流会 計48名（前年比 +9名）	平成30年７月29日	29	20	9
	平成30年８月18日	19	△ 11	30
県身体障がい者カラオケ大会	平成30年９月15日	43	△ 10	53

4　会議・研修等の実施状況

会議・研修等名	実施日	出席者	
運営委員会	平成30年４月26日	15人	委員９、協会１、苑５
運営委員検討会	平成30年４月13日	５人	委員２、苑３
	平成30年７月19日	６人	委員２、苑４
	平成30年11月13日	６人	委員２、苑４
	平成31年２月15日	６人	委員２、苑４
利用拡大協力員会議	平成30年４月26日	41人	協力員30、運営委員6、協会1、苑4
安全運転管理者講習	平成30年９月13日	１人	
消防訓練(通報、避難・誘導、消火)	平成30年11月５日	13人	
業務検討会	平成30年11月５日	13人	
整備管理者講習	平成30年10月29日	１人	
新春研修会（県協会主催）	平成31年１月４日	２人	

5　主な施設等の改修状況

(1) 主な整備事項

○　客室「りんどう・ききょう・べにばな」網戸張替（４月）
○　男子風呂場タイル修理（４月）
○　業務用掃除機修理（５月）
○　厨房内冷蔵庫修理（５月）
○　客室「ばら」ルームエアコン交換（８月）
○　換気扇交換（女子浴室脱衣室、女子トイレ）（８月）
○　はばたき号廃車（８月）
○　客室「あやめ」天井補修（８月）
○　冷蔵ショーケース交換（９月）
○　換気扇交換（男子トイレ）（９月）
○　給湯圧送ポンプ修繕（10月）
○　暖房補給水回路修繕（11月）
○　高圧気中開閉器交換（12月、指定修繕）
○　新「はばたき号」配置（３月）
○　客室「うめ・さくら」畳表替え（３月）

(2) 主な整備要望事項

・　客室等の整備（和室の段差解消と洋室の増設、トイレ増設等）
・　消防設備の整備（スプリンクラーの設置等）
・　食堂及び厨房の整備（間仕切り設置、食材検収室の設置等）
・　外壁、外構の整備（外壁の塗替え、駐車場の嵩上げ）
・　備品類の整備（冷房設備の更新、椅子・テーブルの更新等）

平成３０年度

ほっとぴあ事業報告書

1　経営状況

・収支決算書参照

2　沿革

- 昭和３６年１１月　県立中央病院内売店設置運営開始
- 昭和３７年　４月　県立中央病院内理容所を設置（平成１３年３月廃止）
- 平成１３年　５月　県立中央病院の移転に伴い現施設内に設置運営
- 平成３１年　１月　ヤマザキショップ（Ｙショップ）に加盟

3　営業について

⑴　商品取引に当たっては、年度当初に見積書を提出させ、その値段を基本に安定した商品販売を推進した。また、病院内に勤務する職員を主な対象として利用拡大し、安定した運営を行うため、平成３１年１月２８日Ｙショップに加盟した。

⑵　病院内職員の福利厚生施設的位置付けと共に、患者やその家族への支援としての役割持つ特殊性を考慮し、良質な商品を小売店として可能な限り安価に提供できるよう、Ｙショップや卸店の協力を得て販売に努めた。

⑶　お客様のニーズに応えられるよう、新規商品や季節に合った商品等の納入にも努めるとともに、Ｈ３１年１月末以降はＹショップの指導のもとサービスの充実に努めた。

⑷　平成２３年５月から取り入れたポイントカード（還元率３％）は、Ｈ３１年３月末現在、発行カードの延数が約１，７５０枚に達している。利用者は、病院職員の人事異動等や患者の変化等に伴い増加しているが、還元率が大きい割に客足の確保につながっておらず、還元率の見直しを検討する必要に迫られている。

⑸　収益事業運営委員会の協議のもとに、山形県よろず支援拠点からの助言を受け、リハビリセンターのパンの広報販売に努めた。具体的には、Ｈ２９年９月以降実施している売店独自の「今週のおすすめパン」として、センターで示した価格の２０～３０％引きで販売しているほか、５月に100円セールを、また、Ｙショップ開店セールの中でセンター製品コーナーを設け好評を得た。

⑹　飲料商品について、⑸同様助言を参考に卸業者の協力を得て、季節に応じた新商品を格安限定商品として広報販売したほか、また、Ｈ３１年１月末以降は、安価なＹショップ飲料製品の仕入れにより、商品全体の売上増に努めた。

⑺　その他病院が実施する「あおやぎ祭り」等の行事やセンター行事への積極的協力等に工夫しながらＰＲに努めた。

⑻　平成２７年度から引き続き実施している山形県身体障害者福祉協会会員証を提示した会員へのサービスは、今年度の利用回数が１，１０３件で、割引合計額が８９，５１９円となっている。

⑼　これまで収益事業運営委員会において協議してきた電子マネーやクレジットカードによる決済制度を今年度６月から導入した。現在、電子カードは、楽天Ｅdy・WAON・nanaco・iDの４種、クレジットカード等はVISAを導入している。

4　売店が管理する設備

①　売店内設備及び商品		②　新聞自動販売機	１台
③　看護用品自動販売機	１台	④　公衆電話	１４台
⑤　マスク自動販売機	５台	⑥　フード自動販売機	１台
⑦　飲料水自動販売機	３台		

※　④公衆電話については、平成３０年度に４台撤去。

5　職員体制（平成３１年３月３１日現在）

区　分	総　括 主　任	会　計 主　任	販売員	アドバ イザー	計	備　考
職　員	1	1	1		3	母1
臨時職員			9	1	１０	身2母3高1
計	1	1	１０	1	１３	身2母4高1

※　臨時職員には、パート４名を含む。